

**特別活動
(福祉体験)**

平塚市立太洋中学校

単元(題材)目標

・海の近くに立地している本校の屋上は、大地震に伴う大津波警報が発令された場合の地域住民の避難場所となっている。避難者の中には高齢者や障がいのある方などもいる可能性が高い。そのため本校では、さまざまな立場の人のことを考え行動できるように、全校生徒を対象に要援護者の支援を学ぶ「災害対応講習会」を毎年開催している。そのステップとして、毎年2年生対象に実施する福祉体験学習のプログラムの一つとして手話体験学習を行っている。

(1) 実施時期

3年生卒業後の年度末午前授業の時期

(2) 対象(学年等・人数)

2学年生徒のうち手話コースを希望したもの

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師：平塚市社会福祉協議会ボランティアセンターに手配していただき、平塚市聴覚障害者協会、平塚市手話通訳者連絡会などから派遣された講師(3～4名)が指導者となり、コース担当として生徒の掌握のための学年職員が1名つく。

(4) 実施内容

- ・聴覚障がい者についての理解
- ・指文字による五十音の表し方
- ・手話による自己紹介
- ・手話に関する基本的知識
- ・手話による挨拶
- ・手話における拍手の仕方

(5) 成果

- ・コミュニケーションツールとしての手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- ・要援護者に接する上での優しい心や思いやりの気持ちなど、望ましい態度を育てることができた。

**特別活動
(福祉体験)**

平塚市立太洋中学校

単元(題材)目標

○校内の文化祭の際に、学年の発表として1年生が合唱を行った。太洋中は2年生で福祉体験学習を例年行っていることもあり、そのためのステップの一つとして1年生が手話を伴う歌唱を実施した。

(1) 実施時期

文化祭の時

1学年は6時間練習、文化祭当日発表

2・3学年は文化祭当日鑑賞

(2) 対象(学年等・人数)

1学年 120名が発表し、2・3学年はそれを鑑賞した。

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

本校教諭(手話の映像が入ったDVDをもとに該当学年職員が指導にあたった。)

(4) 実施内容

・「Believe(ビリーブ)」を、手話付きで斉唱した。

(5) 成果

・手話に対する興味関心を高めることができた。